



打刀

16世紀後半

岐阜城千畳敷遺跡（山麓居館）出土

岐阜市蔵

信長居館の建設に伴う土地造成の際に、地鎮の品として埋納されたと考えられます。

全体的に錆が覆い刀身も錆びているものの、切先が確認でき、銅製のはばきは残存する刀装具に隠れて確認することはできませんが、完存するようです。鞘の本体は木質のため失われていますが、表面に塗られた漆が残り、こうがいも差された状態で、装飾も含めほぼ全体が推測できる貴重な資料です。

（開館40周年記念特別展「岐阜城と織田信長－発掘調査から考える岐阜城の姿－」にて展示）

【お知らせ】

岐阜市歴史博物館は10月23日（木）から総合展示室リニューアルのため休館します。
リニューアルオープンは令和8年11月を予定しています。

開館 40 周年記念特別展

岐阜城と織田信長 —発掘成果から考える岐阜城の姿—

2025.8.8(金)～10.13(月・祝)

織田信長の居城として知られる岐阜城は、中世から近世への転換期に築城された、近世城郭の成立を考える上で重要な山城です。

本展では、昭和59年（1984）から開始された発掘調査成果をもとに、信長の時代を中心とした岐阜城の姿を紹介します。

プロローグ 信仰の山

金華山を本格的な城郭として整備、利用したのは斎藤道三です。伊奈波神社を現在の場所へ移転させ、城と城下町を築いたとの伝承があります。山麓部の発掘調査では、建物の基壇や階段、石敷き通路などの遺構が見つかるとともに、懸仏や「大寺」と墨書された陶器、蔵骨器として使用した古瀬戸の壺や瓶類、五輪塔、梵鐘の铸造遺構など、13世紀から15世紀の宗教施設に関係するものが出土しました。



懸仏
13～15世紀
岐阜市蔵

第1章 岐阜城主



斎藤道三像
重要文化財

16世紀 常在寺蔵

展示期間：9/9～10/13



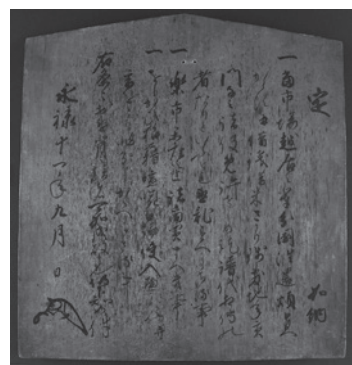
織田信長像
明治15年（1882）
崇福寺蔵

展示期間：8/8～9/7

斎藤道三は、岐阜城（稲葉山城）を拠点に権力を拡大し、美濃国の国主にまで上り詰めました。その後、岐阜城主は息子の斎藤義龍、義龍の息子・龍興へと受け継がれていきます。そうした中、永禄10年（1567）に織田信長が美濃を攻略すると、居城を小牧山から岐阜へと移し、城の大改修を開始しました。信長は、天正4年（1576）に安土へと移りますが、それまで足掛け10年にわたり岐阜城を拠点とし、勢力を大きく拡大させていきました。そして、信長から岐阜城や織田家の家督を譲り受けた嫡男・信忠も、信長の後継者として順調に台頭していきいますが、天正10年に起きた本能寺の変において、父共々自害することとなりました。

その後、岐阜城主は、約10年のうちに、織田信孝・池田元助・池田輝政・豊臣秀勝・織田秀信と短期間で移り変わっていきます。最後の岐阜城主となった秀信（信忠の嫡男）は、慶長5年（1600）、関ヶ原の戦いの前哨戦・岐阜城の戦いで西軍方として戦うも、敗北。その後、岐阜城は廃城となりました。

本章では、信長が発給した「天下布武」の朱印状や、「楽市楽座」の制札のほか、歴代城主10人に関わる古文書や肖像などを展示し、それぞれの岐阜城主時代に迫ります。



織田信長制札（加納宛）
重要文化財
永禄11年（1568）
円徳寺蔵

展示期間：9/9～10/13

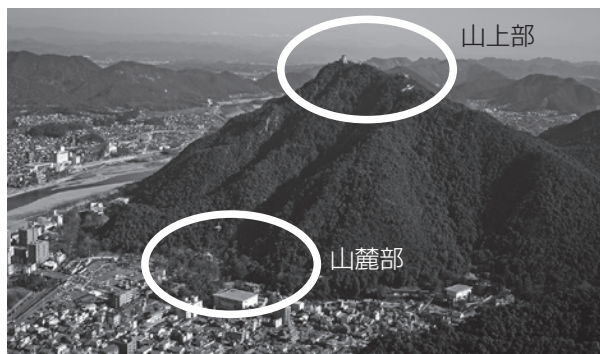
第2章 岐阜城の姿

岐阜城は濃尾平野の北端、美濃山地との境にある標高329mの金華山に築かれた山城です。金華山は全山がチャートでできた岩山で、切り立った岩肌が各所で見られます。山上部と西麓部に石垣などの遺構が集中しています。山麓居館は岐阜公園内にあり、現在見られる地形は信長がこの居館を築造した時の形を踏襲しています。

調査では2回の火災の痕跡が確認されています。一つは永禄10年（1567）の信長の岐阜城攻略の時、もう一つは慶長5年（1600）の関ヶ原合戦前哨戦・岐阜城の戦いの際の火災と考えられ、信長居館の下層には斎藤氏の館があったこ

とがわかりました。

斎藤氏館は永禄10年（1567）の信長の岐阜城攻略時の火災で焼失したと考えられ、大量の陶磁器類、炭化した穀物などが出土しています。



岐阜城全景（西から）

信長は小牧山城から居を移し、城と城下町を「岐阜」と改めます。そして山麓居館の建設に着手し、最初に大造成を行ったことがわかっています。造成土に地鎮の品として打刀（表紙資料）を納めています。信長居館は谷川を中心に11の平坦地を造成、その護岸には石垣や巨石石垣を用いました。各平坦地に建物や庭園を配し、建物の屋根の棟には金箔瓦を用いるなど壮麗な館であったことが想像できます。

山上部は、南の煙硝蔵から北の裏門までの範囲に石垣などの遺構が集中しており、斎藤期の遺構も確認できま

す。「一ノ門」は巨石を立て並べる構造で、美濃国守護土岐氏の居城である大桑城（岐阜県山県市）の伝「岩門」に酷似することからその技術を取り入れたと考えられています。信長は「一ノ門」については全面改修ではなく、門の改修に止めています。「二ノ門」は山上のルート改変によって新しく信長期に造られました。周辺からは門の屋根に使用した軒瓦などが出土しました。「上台所」曲輪からは天目茶碗や宴会に使用する土師器皿が出土しており、御殿の存



金箔棟板飾り瓦（牡丹）

岐阜市重要文化財

16世紀後半

岐阜市蔵



天守の屋根に葺いた軒丸瓦

16世紀後半

岐阜市蔵

在が考えられます。

「天守台」曲輪とその南通路は、信長期に新たに造られたと考えられています。通路周辺では庭石と考えられる直径5～10cmの川原石と土師器皿が出土し、山上部にも庭園があったことが考えられます。

現在の天守西側の調査では、信長期の天守台の石垣や屋根に葺かれた瓦が出土しています。

第3章 岐阜城下町

岐阜城下町は城の西側に広がり、堀と土塁（総構）に囲まれています。15世紀には山の西側を川が南流していましたが、天文4年（1535）の長良川大洪水により大量の土砂で埋まり、道三はこの場所に城下町を築きました。歴史博物館の西側の道路の拡幅工事に伴う発掘調査では、屋敷を区画する溝や建物の礎石、井戸などが見つかりました。天目茶碗や皿、徳利、播鉢などの瀬戸美濃産陶器、青磁、白磁、染付の碗や皿などの中国製品、土師器皿、漆器碗など、当時の武家の暮らしを知ることができる資料が出土しました。



岐阜城下町遺跡出土漆器碗

16世紀

岐阜市蔵

第4章 本能寺の変と岐阜城

天正10年（1582）の本能寺の変により、信長と岐阜城主信忠を失います。変後すぐに崇福寺（岐阜市長良福光）の保護を求めた信長の側室、鍋の書状が残されています。

岐阜城は織田信孝が城主となりますがすぐに羽柴秀吉と対立し、翌年岐阜城を攻められ開城、尾張の大御堂寺で自刃します。その後は織田家の手を離れました。

エピローグ 関ヶ原合戦と岐阜城

慶長5年（1600）8月22日と23日に、清須城に集結していた福島正則ら東軍が木曾川を渡って岐阜城の攻撃を始めました。岐阜城は西の城下町、南の瑞龍寺山、東の達目口から攻撃され、最終的に城主織田秀信（信長の孫）は降参し、落城します。戦いによる火災の痕跡は、城の広い範囲で確認されます。また、被熱によって赤く変色した壁土や鉄鏃、火縄銃の鉛玉などが出土しています。

岐阜市歴史博物館開館40周年 ～次の40年に向けて～

館長 井上 恵美子

40周年にあたって

岐阜市歴史博物館は、昭和60年（1985）11月1日、「市民の教育、学術及び文化の発展に寄与する」ことを目的として設置され、今年で40周年という節目を迎えます。

開館以来、岐阜市の通史を学ぶことができる常設展示に加え、数多くの企画展・特別展を開催し、昨年度末までに、市内外から延べ330万人を超える観覧者をお迎えすることができました。

中でも、平成23年（2011）に開催された「国宝 薬師寺展」や、平成29年の「レオナルド×ミケランジェロ展」などの特別展では、国内外の貴重な文化遺産を多く展示し、たいへんご好評をいただきました。

ほかにも、これまでに29回の開催を数える企画展「ちょっと昔の道具たち」は、例年市内外の多くの学校が学習の機会として利用するなど、地域に根差した博物館として着実に歩みを進めてまいりました。

また、その間、中高生から高齢の方まで幅広い世代のボランティアの皆様方に精力的に活動をご継続いただき、「市民協働型」博物館を目指す当館の運営を支え続けていただきました。改めて感謝申し上げます。

博物館を取り巻く環境の変化

一方で、開館当初から比べると、博物館を取り巻く環境も大きく変化してきました。

令和元年、「地域の自主性及び自立性を高めるための改革の推進を図るための関係法律の整備に関する法律」（第9次地方分権一括法）の成立に伴い、従来教育委員会の所管となっていた公立博物館を各地方公共団体の首長部局へ移管することが可能となり、各自治体は、社会教育施設である博物館を、観光や地域振興、まちづくり等と一体的に活用できるようになりました。本市においても、令和2年に歴史博物館が教育委員会から新たに設置された「ぎふ魅力づくり推進部」へと移管され、鶴飼や岐阜城といった本市を代表する観光事業と一層連携を深め、博物館の運営を展開していくこととなりました。

さらに、同年4月の「文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光の推進に関する法律」（いわゆる「文化観光推進法」）の成立に加え、令和5年4月施行の改正博物館法においては、文化観光の推進等による地域課題への取組が新たに博物館の業務に位置づけられるなど、博物館に求められる役割は一層多様化しています。

また、世界中に猛威を振るったコロナ禍は、美術品や文化財の鑑賞の在り方に大きな課題を投げ、長引く景気低迷は公立博物館の運営費にも影を落としています。

今後の博物館は、資料の収集、保存、調査研究、展示といった博物館の本来の目的を失うことなく、こうした環境の変化に柔軟に対応していくことが求められています。

新たな博物館に向けて

本市においても、歴史博物館が位置する岐阜公園エリアでは再整備事業が進み、今年4月にはPark-PFIを活用した商業施設「岐阜城楽市」がオープンしました。オープン後の岐阜公園の賑わいは、明らかにこれまでとは異なる人の流れをこのエリアに生み出しました。

今後もこのエリアでは、岐阜城の耐震補強工事とそれに伴う展示の更新、信長公居館跡の庭園整備など、来園者に本物の歴史を感じていただくための魅力向上に向けた事業が予定されています。

一方、当館は前回のリニューアルから20年が経過し、展示設備の老朽化が進み、来館者数も伸び悩んでいます。こうしたことから、開館40周年を契機に、時代に即した新たな博物館を目指して、2階の総合展示室の全面リニューアルに着手することとなりました。

リニューアルでは、前述の博物館法の改正等を受け、当館を文化観光の拠点として位置づけ、周遊を促すコンテンツを導入するほか、現在取組を進めているデジタルアーカイブを活用した新たな展示手法も導入します。

40年にわたり当館が培ってきた、地域に密着した市民協働型博物館としての姿を今後も発展・継承しつつ、文化観光の拠点として時代に即した新たなニーズにも応えられるよう、さらなる魅力向上に取り組んでまいります。

今後ともご支援とご協力を賜りますようお願いいたします。

講座の記録から見た 岐阜市歴史博物館40年のあゆみ

稲川 由利子

市民に幅広い角度から岐阜の歴史・文化を理解いただく事業として、当館が開館した昭和60年から展覧会の開催と共に、各種講座の実施に取り組んできました。本稿では、開館の翌年度から発行している年報の記録から、博物館の40年を振り返ります。

講座内容

開館後平成3年までは、県内外の大学教員や博物館学芸員、郷土史家等による美濃の古代から近代の歴史、民俗や文化に関する講演を連続あるいは単独で行っていましたが、平成4年からは当館学芸員が専門分野の知識や研究成果を発表する「土曜講座」を実施するようになりました。同17年度からは、市で実施するようになった「岐阜市まちなか博士認定試験」にあわせ、岐阜に関連する内容は「まちなか博士サポート講座」の別称で実施しています。

その他、常設展示や史跡を解説つきで案内する“見学会”を組み合わせた「歴史散策」などを平成21年まで行っていたほか、民具や伝統工芸などの技法を職人等から学ぶ“作品作り”などは開館当初から現在まで継続しています。

小中学生対象講座

小中学生を対象とした講座の実施は、開館翌年の昭和61年7月の「夏休み子ども歴史教室」（以下、「夏子ども教室」）から始まりました。現在まで続く「縄文土器を作ろう」の他、夏休みの宿題対策を想定した「歴史研究相談会」と「信長・道三と岐阜」という織田信長・斎藤道三に関連する講義と岐阜城などゆかりの地を見学する講座の計3つからスタートし、翌62年には、「わら細工を作ろう」等が加わって5講座となり、のち増減しながら現在では7講座まで増加しています。

平成14年度からは、本格実施されるようになった学校の土曜日休みに合わせ、子どもたちが歴史や郷土について学んだりする機会を増やそうと「子ども歴史探検隊」を月1回開催。一時中断を経て同22年度からは「子ども歴史講座」として年5～8回程度開催するようになりました。「夏子ども教室」が保護者と共に参加する内

容や1日～3日にわたるのに対し、原則保護者の参加を必要とせず1回2時間程度の短時間講座です。一般対象の講座と異なり、同じ内容が続いても参加者はさほど減らない傾向にあり、10年以上続いている講座が少なくありません。

講座継続の要素

講座には、学芸員が交代して名称を変えながらも継続開催してきた「古文書入門」のような事業もありますが、学芸員の異動や担当講師の高齢化、材料調達の難しさ、そして参加者の減少など、種々の理由により廃止して、別の講座を創設せざるを得なくなるケースが少なくありません。

そうした中で、「和傘を作る」や「岐阜提灯を作る」のように長年続く講座は、業界団体のご協力と後継者育成の意味合いがあること、職人から直接学んで全行程の技術を体験出来る「本物志向」に合致すること、1回の参加者数が10人程度と多くないこと、など複数の要素があわさって、継続してきたと思われます。

また、小中学生対象の講座は、平成17年度から導入した博物館ボランティアの協力も得て実施しています。「縄文土器を作ろう」は昭和61年から一般と小中学生を対象に始まった講座で、当初は土器の作り方・野焼きの仕方など試行錯誤しながら作っていた部分もあったと聞いています。やがて、講座の受講者が繰り返し参加するうちに成功率もあがり、講座から独立して「岐阜縄文土器クラブ」を発足させ、自主的に制作活動をするまでになりました。新規参加者が減少したことから一般対象講座は平成16年を最後に廃止しましたが、その後もクラブ会員には「夏子ども教室」の講座で材料準備や交代した担当学芸員にかかわって制作指導にあたるなどしていただいています。

振り返ってみて、各種講座の実施・継続は、多くの外部講師の熱意や業界団体のご協力、そして博物館や講座に関心を寄せてくださった参加者、さらに活動



「縄文土器を作ろう」講座の様子を支援いただいたボランティアあつてのものであると気付かされます。心よりお礼申し上げますとともに、普及活動の成果の表れであると、歴代職員の努力の蓄積にも敬意を表します。

博物館ニュース

総合展示室 リニューアルについて(Ⅱ)

岐阜市歴史博物館は10月23日（木）から休館し、約1年かけて2階総合展示のリニューアルを行います。新しくなる展示室のイメージ図を一部ご紹介します。（イメージ図は今後変更の可能性あります）。

タイムトリップ in 城下町

宣教師ルイス・フロイスが岐阜を訪れた永禄12年（1569）の岐阜城下町を再現したコーナーです。リニューアルでは新しく信長の家臣の武家屋敷を復元。これまでの町屋も新しい店となります。また、デジタル着付けや火縄銃の射的体験も登場し、様々な体験コーナーを通して、町人や武家のくらしを学ぶことができます。



マイ・トレジャー・ウォーク

このコーナーでは、岐阜の歴史や文化を物語る様々な資料の画像が、長良川をイメージしたディスプレイの上を流れてきます。「あっ、これ好き!」と思う画像をタッチすると、詳しい情報を見たり、そこから次々と関連する好みの資料を探したりすることができます。岐阜市の歴史を概観するとともに、自分の「宝物」を探していただくコーナーです。



リニューアルオープンは令和8年11月の予定です。

博物館ニュース

デジタルサイネージの 寄贈

このたび、岐阜ライオンズクラブ様から、結成70周年記念事業として、屋外用のデジタルサイネージをご寄贈いただきました。正面玄関東側に設置し、歴史博物館と加藤栄三・東一記念美術館の展覧会や講座等のPRのほか、岐阜公園エリアと連携したイベントの情報発信に幅広く活用していきます。



左：贈呈式
下：除幕式
(令和7年7月24日)



■分室 原三溪記念室の展示■

○～9月28日（日）

「三溪と鶺鴒」

○9月30日（火）～11月9日（日）

「杏村・三溪の描く秋のすがた」

○11月11日（火）～12月21日（日）

「三溪、竹を描く」（仮）

○12月23日（火）～令和8年2月23日（祝・月）

「三溪の生家・青木家の暮らし」（仮）

○2月24日（火）～

空調工事のため休室予定

上記の日程は、都合により変更する場合もございます。ご了承ください。

令和7年度後半の 展覧会

はじめに

令和7年7月6日、「立ち現われる空間 久野利博展」は盛況のうち無事終了しました。会期中は美術分野で活躍する多くの有識者の方々にもご来場いただきありがとうございました。また、来場の折は今後の加藤栄三・東一記念美術館の企画展や作家の選定基準、運営方針、広報等について貴重なご意見を賜り厚く御礼申し上げます。

久野利博展の会期は終了しましたが、引き続き美術館中庭に久野利博のインスタレーションを楽しんでいただける空間を創りました。9月からの企画展とあわせて体験していただければ幸いです。



久野利博「Untitled 2025」

9月からの企画展について

第1展示室では9月28日（日）までの加藤栄三・東一が描いた岐阜を紹介する作品展示に続き、収蔵作品の中から展示機会の少ない栄三・東一と同時代に活躍した作家を紹介する企画展や歴史博物館収蔵の名品を紹介する企画展を予定しています。

第2展示室では洋画家、矢橋頌太郎と日本画家、川島正行の二作家の画業を紹介します。

大垣市出身の洋画家、矢橋頌太郎が描く油彩画「VIEW」シリーズは、祖母と過ごした思い

出の記憶からヒントを得て描いた作品で、人の頭を上から俯瞰して描いた類似性の無い画風は多くの洋画ファンを魅了しています。今回は、新作を含む15点余の「VIEW」シリーズ作品を展示します。「矢橋頌太郎展」は11月12日（水）～12月21日（日）まで開催します。

12月24日（水）～1月25日（日）の期間には、各務原市在住の日本画家、川島正行の画業を紹介します。

川島は、文化資源でもある絵絹に墨の濃淡を駆使した幅広い表現方法による心象的な風景を得意とし、日本はもとよりフランスで活躍中の日本画家です。

また、美術団体に関する展示として『雑魚展《THE KOTEN》』（10月2日（木）～11月9日（日）開催）と現代美術に挑む作家集団『萌土社』の『萌土展』（1月27日（火）～3月1日（日）開催）の2団体の活躍を紹介します。

日本画家 竹原 城文 展

3月4日（水）からは、久野利博展に続き、美術館展示室をすべて開放して、独自性や自由な発想を重視した日本画の公募団体「創画会」の会員、竹原城文の画業を顕彰する展覧会を開催します。



「此の村で」竹原城文 画

竹原城文は愛知県立芸術大学で片岡球子、守屋多々志から日本画を学び、同大学卒業後、山本丘人、加藤栄三らが立ち上げた創画会を活躍の舞台に選り研鑽を重ねます。昭和47年(1972)文化庁派遣芸術家在外研修員として中国黄土高原を訪ね、ここでの体験をもとに描いた作品が高い評価を得て、平成15年(2003)愛知県芸術選奨文化賞を受賞。日本画家としての地位を確立します。

また、東海女子短期大学、東海女子大学（現東海学院大学）、大阪芸術大学で教授として教鞭を取り、後進の育成に尽力しました。

館蔵資料紹介

織田信長朱印状（赤澤右近宛）

元亀3年（1572）11月12日

1幅 本紙 縦13cm、横41cm



【翻刻】

蘇原郷高頭千／五拾貫文之外、／八幡根本寺領永／不作方并給人／はつれの事、令／扶助候、遂糺明可／領知之状如件、／元亀三／十一月十二日 信長（朱印）／赤澤右近殿

【作品解説】

令和6年度に購入した新収蔵資料です。岐阜城主時代の信長が発給した朱印状で、家臣の赤澤右近に、蘇原郷（現各務原市）の土地1,050貫文などを与えています。文中に見える「八幡根本寺」は、現在の加佐美神社のことです。朱印は馬蹄形の「天下布武」印で、本文は信長の右筆（書記役）・武井夕庵が書いたものと見られます。

赤澤右近の詳細については不明ですが、元亀3年の織田信長と武田信玄の外交交渉で「赤澤」という人物が使者を務めており（「（元亀3年）10月5日織田信長書状」（奥野高廣『増訂 織田信長文書の研究』補遺130）、これと同一人物か一族の可能性が考えられます。

本資料は、9月23日（火・祝）から10月13日（月・祝）まで、特別展「岐阜城と織田信長—発掘成果から考える岐阜城の姿—」で展示予定です。

利用の御案内

■ **開館時間** 午前9時～午後5時
（歴史博物館、加藤栄三・東一記念美術館
の入館は午後4時30分まで）

※特別展開催中は変更することがありますのでご注意ください。

■ **休館日** 毎週月曜日と祝日の翌日（月曜日が祝日の場合はその翌日）
（歴史博物館）10月23日（木）～令和8年11月頃
（加藤栄三・東一記念美術館）
12月28日（日）～令和8年1月3日（土）

■ **観覧料**
高校生以上…310円（団体250円）
小中学生 …150円（団体 90円）
両館共通で観覧される場合
高校生以上…520円（団体410円）
小中学生 …260円（団体150円）

特別展料金
高校生以上…800円（団体700円）
小中学生 …400円（団体350円）
※今回の特別展に限り、特別展料金で歴史博物館と加藤栄三・東一記念美術館が観覧できます（当日に限る）。
※団体は20人以上
※下記の方は無料でご観覧いただけますので、①②の方は証明できるものをご提示ください。（ミライロID可）
①岐阜市在住の70歳以上の方
②身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳、療育手

帳、指定医療費（指定難病）受給者証又は登録者証、小児慢性特定疾病医療受給者証又は登録者証の交付を受けている方、及びその介護者1名様

③家庭の日（毎月第3日曜日）に入館する中学生以下の方と同伴する家族（高校生以上）の方（特別展を除く）

④岐阜市内の小中学生

◎原三溪記念室は、無料でご観覧いただけます。

■ **交通案内**
《歴史博物館・加藤栄三・東一記念美術館》

JR 岐阜駅・名鉄岐阜駅から岐阜バスにて長良方面行きの乗り、「岐阜公園・岐阜城」で下車、徒歩約5分。岐阜公園内ロープウェー乗り場すぐ隣に加藤栄三・東一記念美術館があります。

お車でおこしの際は、岐阜公園駐車場をご利用ください。

詳しくは岐阜市歴史博物館ホームページをご覧ください。

<https://www.rekihaku.gifu.gifu.jp/>



《原三溪記念室》

岐阜バス西部三田洞線 下佐波及びカラフルタウン行きに乗り、「下佐波」で下車、徒歩2分。岐阜バス西部三田洞線 もえぎの里及び高桑行きに乗り、「もえぎの里」で下車、徒歩すぐ。

博物館だより No121 2025.9

編集・発行 岐阜市歴史博物館
（分館） 加藤栄三・東一記念美術館
（分室） 原三溪記念室

〒500-8003 岐阜市大宮町2-18-1 ————— ☎058(265)0010
〒500-8003 岐阜市大宮町1-46 ————— ☎058(264)6410
〒501-6121 岐阜市柳津町下佐波西1-15 もえぎの里2階 — ☎058(270)1080